



ふれあい



春風生福寿



【基本理念】

私たちは、医の倫理に高い視点において高度急性期医療に携わる誇りと責任をもち、患者、家族との相互理解を深めて県民に信頼される親切であたたかい病院をめざします。

- 目次 -

年頭のご挨拶	院長 望月泉	2
新渡戸稲造「メディカルカフェ」	加藤誠之	3
総合診療科って何している科なの？	坂本和太	4
医療研修センター医療講演会の実施について	西野謙次	5
病院機能評価準認定について		6
看護部のご紹介		7
編集後記		8

【行動指針】

- 1 私たちは、十分な説明をおこない、良質で安全安心な医療をめざします。
- 2 私たちは、医学、医療の研鑽に励み、本県医療水準の向上につとめます。
- 3 私たちは、県内医療機関との機能分担・連携のもと、高度医療と救急医療を提供します。
- 4 私たちは、本県医療の確保のため、地域医療機関への診療支援に努めます。
- 5 私たちは、甚大な被害を及ぼす災害にも対応できる医療体制を整えます。
- 6 私たちは、臨床研修体制を充実させ、国民の期待する医師の養成につとめます。
- 7 私たちは、健全経営につとめ、効率的な病院運営をめざします。

※ 広報誌「ふれあい」は1,700部を作成し、県民、連携医療機関、行政機関等に岩手県立中央病院の情報をお届けしています。

2013年 年頭にあたって

病院長：望月 泉

2013年の年頭にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。衆議院総選挙も終了し、自由民主党の圧倒的勝利に終わりました。景気対策をはじめ、解決していない難問が山積しており、医療・介護・福祉・年金等政治から目が離せません。

昨年4月、私は当院病院長となり、8か月間病院運営の舵取りを行ってまいりました。「改革」と「再生」というキーワードを常に脳裏に浮かべながらことにあたってきたつもりです。米国オバマ大統領は2選を果たしましたが、皆様ご存知のように前回の演説の中で「change!」と「Yes, We Can!」というフレーズを何回も使っていました。国民が総意を結集して目標に向かっていけば不可能なことはないと言っているのです。当院においても、岩手県立病院のセンター病院として、がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院としてさらに質が高くかつ安心、安全な医療の提供をめざし、いかなる困難があろうとも職員が一体となってチーム医療を推進し、改革、再生をキーワードに医療の質の向上を追求して行ければと願っています。

当院の基本理念は、「私たちは、医の倫理に高い視点において高度急性期医療に携わる誇りと責任をもち、患者、家族との相互理解を深めて県民に信頼される親切であたたかい病院をめざします」と掲げています。具体的にめざすものとして7項目の「行動指針」を挙げています。この基本理念を実現するためには、われわれ医療人の「心」が重要となります。ただお題目を唱えるばかりでは実現できませ

ん。高度急性期医療の中でどうしても後回しにされそうになる「心」を医療の提供者として常に年頭において行動しなければなりません。言い換えれば、患者さん、広くは人類に対する愛情です。もしそうでなければどんなに質の高い医療を提供しても理解されませんし、われわれの基本理念そのものが実現できなくなります。

昨年9月1日、第4回岩手県立病院総合学会が開催されました。特別講演は順天堂大学 病理・腫瘍学講座 教授樋野興夫先生から「新渡戸稲造生誕 150周年記念事業 ～新渡戸稲造外来の時代の到来」を拝聴しました。盛岡に生まれ、日米文化の架け橋として活躍した新渡戸稲造の「BUSHIDO」(1899)という英文著書のその中で、武士道を支える3つの柱として「Wisdom(智=知恵)、Benevolence(仁=思いやり)、Courage(勇=勇氣)」をあげています。仁は、医は仁術の仁ですが、孔子がその中心にすえた倫理規定で、他人に対する親愛の情、優しさを表します。誰かに負けないためにとではなく、自分のために自らをたかめる、そして心を磨き品性を確立するという姿勢が重要で、その結果としてあるいは努力の過程として誰かのためになるということです。このことを医療人のあり方としての基本にしたいと思えます。

今年は、第15回日本医療マネジメント学会学術総会を6月14日(金)、15日(土)の2日間にわたり、盛岡市マリオス、アイーナを主会場に開催することになりました。



本学会は、1999年発足以来、クリティカルパスを中心に医療安全、医療連携、医療の質の向上など幅広い分野において情報発信を行い、大きな業績を挙げてまいりました。学術総会も回を重ねるごとに着実に発展を遂げ、良質で効率的な医療を提供するための議論の場として高い評価を受けており、第15回を迎える今回は、「とりもどそう あたたかい故郷を一地域との協働で拓く医療の未来」をメインテーマとして、特別講演や教育講演、シンポジウムなどを企画し、チーム医療や医療連携、災害医療、クリティカルパス、地域医療、IT化など今日の医療が抱える様々な課題に対し、実り多い議論が行われるよう開催準備を進めております。医療を取り巻く環境は、社会保障改革をはじめ今後も大きく変革していくものと思われま。その中で、医療に携わる私共の不断の努力とそれぞれの地域との協働による信頼こそが、患者中心の医療を築いていくものと考えており、本学術総会の開催は必ずや医療の質の向上や地域の発展にも寄与するものと考えております。多くの職員の方々のご協力を得て、是非とも成功させたいものと思っています。

以上、年頭にあたりのごあいさつとさせていただきます。

例えば、がんのような重大な病気になったとき、どうすれば良いでしょうか。このような病気の際には、治療の不安、今後の生活の心配、生命や生きがいに関する見通しが立たないなど、様々な状況が出てくる場合があります。実際には、「決断はしたのだけれど、何となく心配。」とか、治療方針に関して、患者さん本人が決めかねていて、家族の方々が心配されているとか、実に多様ですね。

医療関係者から見れば、基本的には、適切な治療が選択されていれば、まず、第一段階としては良いのです。しかし、「適切に治療されたが、再発が心配。」とか、「治療のことはさておき、自己の活力が感じられなくなった。」とか、人の悩みは尽きないものなのです。

がんの場合には、このような不安に対応する窓口は、あまり整備されていませんでした。そこで、2006年制定のがん対策基本法によって、がん診療を行う拠点病院には、がん相談窓口が設けられることになりました。しかし、残念ながら、全国的にがん相談窓口の評価は高くなく、問題点として情報提供に重きを置いて、上に記したような悩みには、中々対応できていないことが指摘されています。

こういった課題に対応するための試みとして、当院では新渡戸稲造記念 メディカル・カフェを昨年から発足し、不安を話すことができる場、他人の不安にも耳を傾け、何かしらアドバイスできる場として、双方向的な安らぎのスペースとして活動を行っています。現在は、月一



回、第3金曜日の14時から16時に、9階西病棟の「すこやかルーム」にて開催しております。コーヒー、お茶などの飲み物を飲みながら、日常生活のこと、通院のことなど、雑談しながらのスタイルですが、大きな心配事がある参加される方もあり、医療スタッフを含む、この場に集った仲間が、不安をお聞きしたり、アドバイスしたりさせていただいています。毎回出席されている方もありますし、スポットで参加されている方もあり、ご自分のスタイルで参加可能です。また、当院に通院されていない方でも自由に参加できます。

なぜ、新渡戸稲造記念なのか、少し、触れさせていただきます。この試みの発端は、順天堂大学の樋野興夫教授に、昨年より、当院にて、がん哲学外来を行っていただくことになったのが契機です。その際、どのがん哲学外来でも、その地の偉人の名前を冠するという約束事があります。盛岡の地には沢山の候補がりましたが、当院の設立にも縁があり、悩めるものに対する慈愛に満ちた人格者ということ、樋野先生自身も、若き日より、

敬愛して止まない大先生ということで、新渡戸稲造記念となりました。幸い、新渡戸稲造会でも、名前を使用して差し支えないというご許可をいただけましたので、新渡戸稲造記念 がん哲学外来、メディカル・カフェとして活動を行っております。また、2012年は、新渡戸稲造が、盛岡市下ノ橋に生まれてから150周年記念の節目の年でもありました。

参加される方のニーズに合わせて、リンパ浮腫のマッサージに関する情報提供や、新渡戸稲造の「武士道」の読書会など、参加者が自由にテーマを選んで、楽しみながら情報交換できる場として、今後とも活動を続けていきたいと考えております。本格的に活動されたい方は、スタッフとしても活動できます。まずは、クランボルトの法則に言うように、何か良いことが自分に起こるようにするには、良いことが起こりそうな場に出掛けてみるというのはいかがでしょうか。その一つの選択肢として、メディカル・カフェを活用していただければと存じます。

総合診療科って何してる科なの？

総合診療科 坂本和太

糖尿病、高血圧、高脂血症、低ナトリウム血症、低カリウム血症、高カルシウム血症、甲状腺機能低下症、原発不明がん（多発転移）、リンパ節腫大、アミロイドーシス、低体温、熱中症、誤嚥、尿路感染、扁桃炎、胃腸炎、丹毒、副腎偶発腫、ベーチェット病、副甲状腺機能亢進症、マイコプラズマ肺炎、大量服薬、ほてり、手足と舌がしびれる、今夜は帰りたくない。

2012年4月、「総合内科」は「総合診療科」と名前が変更になりました。未だ総合内科と呼ばれることも多いですが、「総合診療科」です。よろしくお願ひします。

当科では生活習慣病および感染症・不明熱などの疾患に加え多岐にわたる問題点を抱えた患者さんのマネジメント、更には当院における救急医療や研修医教育の充実にも今後たずさわっていきたいと考えています。冒頭のリストは私が赴任してから半年で診療した患者さんの訴えや病態です。他の科あるいは他院の先生から「この患者さんよくわかんないんだけど診察お願いします」という紹介状をよくいただきます。

申し送れましたが総合診療科の坂本と申します。当院初期研修を2年、その後、当院後期研修・総合診療医コースで5年間、各科を数ヶ月～1年ずつという単位でローテーションさせていただきました。2010年から県立宮古病院に2年いってまいりましてこの春より再び当院でお世

話になっております。私のお話をいたしますと、将来は岩泉で働きます。そのため、心カテや手術は出来ませんがエコーやカメラ、縫合や鼻出血の止血などは自分で出来るよう研鑽を積ませていただきました。

そもそも「総合診療」って何なの？と、よく聞かれます。「患者さんの病気を診療する」のではなく、「病気を持った患者さんを診療する」というコンセプトです。肺炎で入院、それが改善したので終診。ではなく、肺炎になる背景の疾患はないか、再発を予防する対策はないか、また、治療中の血圧や血糖は適正か、これまで内服していたこの内服は必要か、介護や福祉等を適切に利用されているかなど、決して病気のみで終始しない全人的医療を目指しています。

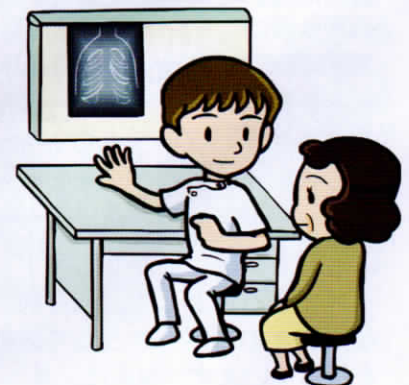
また、医師育成の観点からは、若手医師に対して“全身を統合した診方を習慣づけさせる場”ひいては“Generalist（総合診療医）を育成する場”を提供すべく努力したいと思っています。岩手の田舎で一人でも戦えるような医師を増やしたいです。従来、医

学の発展とともに学識、技術は細分化・専門特化され医師は各々他の分野とリンクしながらも自らの意欲や興味から専門科を志望し、勤め、学んできました。むろん、「一人の医師が何でもできる」というのは土台無理な話です。しかし、例えば当院の外來でも、「うちじゃない」で済ますと患者さんはまた更に他科の外來で2時間待つことになります。専門的な検査や治療は

勿論しないにせよ自分で解決できることを増やせばそれは患者さんのためになるのではないかと思います。

「総合診療」の必要性和認知度は今後ますます高まるのは間違いありません。また、生活習慣病も今後ますます増えてきます。専門医でなかりと病勢の評価から初期治療までは誰しもがすべき時代が来るのではないかと考えられます。

発足したばかりの総合診療科ですが岩手の将来を見据えて臨床・研究・教育に精進し後進の育成もおこなっていきたくです。宜しくお願ひします。



医療研修センター医療講演会の実施について

業務企画室 主任 西野謙次

はじめに、当院は県内の医師及び医療従事者を対象とした学会・研修会などを主な活動内容とする地域医療研修センターとしても活動しており、毎年医療に関係したテーマで講演会を行っています。

この講演会は、当院を主会場、各岩手県立病院のうち基幹病院等（二戸、中部、胆沢、磐井、千厩、久慈、宮古、大船渡、釜石）を分会場として中継を行い、盛岡地域以外の方も聴講しやすいよう配慮しています。内容についても、22年度は緩和医療「地域での看取り」、23年度は救急医療「救急の歴史をつくる」と、偏りがないよう毎回テーマを変えて実施しています。また、医療機関のほか、行政、介護、救急などテーマに関係する各関連機関への開催周知も積極的に行っていますので、今後も多くの職種の方に利用していただければと思います。

さて、今回は11月16日、新潟県立十日町病院院長の塚田芳久先生を講師にお招きし、地域医療をテーマに「地域医療は地域力」と題して開催しました。

講演は、地域医療の代表的な問題として、①医師過重労働、②医師不足、③医師の意識、④



医療政策の4項目を挙げ、新潟県の現状や、医師不足や過重労働の状況について岩手県との類似性（県立病院数：岩手20（全国1位）、新潟15（2位））などを挙げてわかりやすく説明し、問題克服のための方策も示してくださいました。

講演の冒頭でも、地域医療改善の新しく簡単なアイデアはないと断言されており、問題解決には患者となる「住民理解」ばかりでなく、「自治体・行政の協力」、職員をはじめ地域の「マスコミ対応」など地域の環境整備を行い、地道に努力して地域医療支援の地域力を養成していくことの重要性を説かれたほか、即効性のある対応策に十日町病院で実施した実例として、情報共有（住民啓発、BSCなど）、過

重労働軽減対策（クラークの活用、外来・入院患者数のコントロール）、常勤医師増員などを挙げ説明していただきました。

スライドの合間には、先生のご趣味のボウリングや新潟の自然の写真を挟むなど飽きさせない工夫もあり、2016年に行われる岩手国体にも選手として来県予定であるとか、当院の初期・後期研修を修了した廣田菜穂子先生が現在十日町病院へ勤務していて非常に役に立っているなど、嬉しい報告もいただき非常に励みになりました。

会場から質問があった臨床研修、専門医資格などについても、日本病院会等の協議資料なども交えて具体的な説明を行い、今後の方向性を見据えた切り口で非常に興味深い講演会でした。

最後になりますが、塚田先生は外来診察のローテーションもこなされたほか、県医師会、日本病院会、自治体病院協議会の各会理事なども兼務され、非常に多忙な先生でしたが、急な依頼にも拘わらず講演をご快諾くださり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



病院機能評価認定について

総務課長 高橋 広

当院が、平成 21 年 6 月に病院機能評価認定 (V5.0) の通知をうけ早 3 年が経過しました。平成 26 年 2 月 14 日で認定証の期限が到来します。

次の更新は、統合版評価項目 V6.0 での受審と思われましたが、病院機能評価の枠組みと評価項目 (機能種別) の改定が行われ、統合版評価項目 V6.0 は、平成 25 年 3 月末で終了するため、新たな病院機能評価 (機能種別評価項目 一般病院 2 病院 V1.0) での受審となります。



今回の改定の概要は、次の通りです。

① 病院の特性に応じた機能種別を選択

新たな病院機能評価の枠組みでは、病院の特性に応じた 5 つの機能種別、一般病院 1、一般病院 2、リハビリテーション病院、慢性期病院、精神科病院が設定されました。

当院は、一般病院 2 が該当となります。(一般病院 2: 主として、二次医療圏等の比較的広い地域において急性期医療を中心に地域医療を支える基幹的病院)

② 評価内容の集約・重点化と評価項目数の削減

機能種別評価項目では、臨床現場での評価に重点をおいて項目を構成、V6.0 の評価項目の中項目 137 項目、小項目 352 項目から、機能種別版評価項目では中項目を 88~92 項目に削減し、小項目も廃止されました。

機能種別版評価項目の評価対象領域は 4 つ (1 患者中心

の医療の推進、2 良質な医療の実践 1、3 良質な医療の実践 2、4 理念達成に向けた組織運営) に集約され、選択した機能種別に基づく評価項目で審査が行われます。

③ プロセス重視の審査

新たな病院機能評価の枠組みでの審査では、病院 (病棟) の代表的な症例の患者さんの診療録を参照しながら、その患者さんが外来に来院し、入院、退院に至るまでの実際の経過に沿って病院とサーベヤーがやり取りしながら審査が行われます。

④ 継続的な質改善運動の支援

認定期間中の病院の質改善努力を確認し、必要な助言を行い改善活動の継続を支援するために 3 年目に「認定期間中の確認」が行われます。

病院機能評価とは、一定の評価に基づき第三者である日本医療機能評価機構が、病院の機能・医療の質について評価を行う制度です。この制

度は病院が提供するあらゆるサービスの質の向上を図ることが大きな目的で、患者様 (医療を受ける立場) が安心して質の高い医療を受けるために病院 (医療を提供する立場) の現状や将来へ向けた機能を評価するものです。

中央病院としては、病院機能評価を受けることにより、より一層の、医療の質の向上、職員の意識の向上、職種間のコミュニケーションの活発化、組織活動の円滑化等の効果を期待し、安定した経営・評判の高い病院運営の実現を目指してまいります。

なお、今回の機能評価受審にかかる訪問審査は、平成 25 年 12 月の受審を予定しております。今後は、医療機能評価委員会等が設置され、院内各部署での自己評価と改善活動、証拠書類のファイリング等が進められることとなります。準備期間は、今から 11 月あります。今年末にはさらにレベルが上がり機能的な医療が展開される中央病院の姿を皆様と実感したいと願っております。職員の皆様のご協力の程よろしくお願いたします。

看護部 紹介



私たちは患者様の心に寄り添い
安全であたたかい看護をします

平成 24 年度 看護部の重点事項

1. 安全な看護の実践



医療安全、院内感染対策等は、看護部のみならず病院全体の大事な使命です。看護部では常に職員教育を重ね、「安全・安心」な看護の提供に努力しています。

2. 満足度の高い看護の提供

「質の高い看護の提供」により、患者満足度の向上を目指しています。患者受持ち制・看護技術の標準化・接遇・NANDA 看護診断等を推進しています。



3. 人材育成の推進



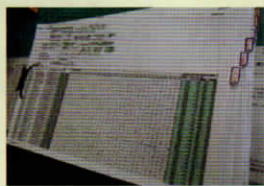
キャリア開発ラダーに沿って計画的に人材育成を進めています。看護補助者や復帰・中途採用者にも随時研修を企画し、人材育成に力を入れています。

4. 電子カルテの円滑な運用

電子カルテプロジェクトを看護部内にも組織化し、継続課題に取り組んでいます。使用人数でも看護部が最大であるため、今後もより良いシステム構築に努めていきます。



5. 経営の健全化と効率化



7:1 入院基本料取得に向け看護部が一致団結し、日夜勤務時間管理をしながら病院収益に寄与しています。看護職員の WLB にも目を向け、職員満足度向上が図られるよう取り組んでいます。



フローレンス・ナイチンゲール
近代看護教育の生みの親。
イギリスの看護婦、社会起業家、統計学者、看護教育学者。(1820年～1910年)

看護部長：村山和子



笑顔をもっとウに、起き上り
小法師でがんばります!!

◆クリスマスコンサート◆

総務課庶務係 今野 望

12月19日に行われたクリスマスコンサートの模様をお伝えします。

最初は、あゆみ保育所の小さな聖歌隊が登場です。おもちゃのチャチャチャでは歌に合わせて飛び出して、元気いっぱい3曲を歌ってくれました。歌い終わったところで、なんとサンタさんが登場。みんなにプレゼントをくれました。ほほえましい風景に、会場には笑顔があふれました。

続いて、院内で活動中のボランティアひまわりにより、冬の代表曲 たきび、雪、そして震災復興ソングである 花は咲く の素敵な合唱が披露されました。会場の皆さんも一緒に楽しく歌ってほしいとの願いから、待機していた上田中学校の生徒たちも加わって、全員でにぎやかにジングルベルを歌いました。そして歌い手が去った後には、ギターが奏でるホワイトクリスマスが、心地よくステージに響き渡っていました。

最後に出演してくれたのは、上田中学校の生徒たちです。サンタと鹿（トナカイじゃなくて鹿なのがポイント）による曲紹介とは裏腹に、きよしこの夜、世界に一つだけの花が流れると、その美しく素晴らしい歌声に会場は静寂に包まれ、誰もが時間を忘れ聞き入っていました。合唱の終わりには、割れんばかりの拍手が送られました。

実はこの生徒たちは、このコンサートにぜひ出たい！と自ら手を挙げてくれた、1、2年生の有志50名により結成されているとのこと。患者さんからは「歌があまりに素晴らしかったので、感動で涙が出ました。」という声が寄せられました。

コンサートに出演いただきました皆さん、ご協力ありがとうございました。

(クリスマスコンサート実行委員会)



◆ 編集後記 ◆

新年あけましておめでとうございます。

天空を泳ぐ辰から大地を這う巳へ。新年を迎え、地味ながらも着実に前へと進む巳のように、焦らずに一步一步先へと願う今日この頃ですが、最近世の中、便利さばかりが取りざたされ、それに伴うマイナスの面を忘れてしまいがちになります。使い方によっては非常に便利なコンピューターやスマートフォン、twitter できえも、当然ながらそれらを悪用した犯罪が横行しています。病気を治すのには欠かせない薬だっけそうです。入手が簡単のため気軽に飲んだ市販薬にも、下手すると命に関わる副作用がありえます。病院から出される薬は医師の判断から処方されるものですが、当然ながら副作用の重篤なものもあります。

困るのは、服薬している薬による副作用だと診断するのが決して簡単ではない場合もある、ということなのです。医師が把握できていない市販薬による副作用だったらなおさらですね。患者さんの症状に耳を傾け、「良薬口に苦し」は当然ながら「良薬副作用多し」を頭の中で念じながら、日々の診療を行っていきたく思っております。本年もよろしくお願ひ申し上げます。




中央病院広報委員会

◆委員長 島 岡 理

村上 晶彦	小笠原 秀俊
菊池 裕子	福田 耕二
後藤 由美子	佐々木 美奈
田沼 睦	盾石 有
大久保 忠吉	三好 佐由里
小原 鉄男	吉田 奈穂子

ふれあい No. 260 平成 25 年 1 月 発行



岩手県立中央病院

「ふれあい」はホームページでもご覧いただけます。

〒020-0066 岩手県盛岡市上田1-4-1
 電話 019-653-1151 Fax 019-653-2528
<http://www.pref.iwate.jp/hp9001/iph/chuohp/>

R100
 古紙パルプ配合率100%再生紙を使用